

揖斐郡池田町二ノ井遺跡発見のナイフ形石器・尖頭器 美濃加茂市鷹之巣発見のナイフ形石器

長屋 幸二

Introduction to backed knives and a point collected at Ninoi-site
Ikeda-town Ibi-gun
and a backed knife collected at Takanosu Minokamo-City.

Koji NAGAYA

1. はじめに

岐阜県博物館では、県民の生涯学習がより充実したものとなるよう、常設展示や企画展示の公開だけではなく、県民との協働による調査研究等の活動を行っている。そうした活動のひとつに「下呂石研究会」がある。参加者とともに、下呂石について地質学・考古学の両面からアプローチし、郷土の自然や歴史を考えていこうとする会で、20名ほどの参加者がある。昨年度は館からの働きかけが主で、下呂石薄片作成と検鏡、打ち割りと石器製作実験、露頭見学などを行った。今年度は個々のメンバーが有している情報の調査・研究が主な活動となった。

今回紹介する池田町二ノ井遺跡の石器も、そうした資料のひとつである。池田町在住の下呂石の会メンバーにより採集された資料を実見させていただいた際、旧石器時代のナイフ形石器が数点確認された。池田町内では縄文時代草創期の尖頭器は報告されているものの、旧石器時代の資料については知られていない。貴重な資料であり、下呂石研究会の活動成果として紹介する。また、筆者が美濃加茂市鷹之巣において採集したナイフ形石器1点も、この場を借りて紹介しておきたい。

2. 二ノ井遺跡採集資料について

二ノ井遺跡について

二ノ井遺跡(県遺跡番号 G32I01919)は、揖斐郡池田町片山二ノ井(東経 136 度 34 分 02 秒、北緯 35 度 25 分 20 秒)、池田山東麓の扇状地扇中央部に位置する。『改訂版岐阜県遺跡地図』(岐阜県教育委員会 1990)には、奈良平安時代の遺物散布地として登録されている。

平成 22 年(2010)11 月 24 日、採集者とともに現地調査を行った。目的は地形の確認であった。採集地の 100m ほど南東にある南高野古墳は、川の氾濫による砂

礫層に 1 - 3m の厚さで覆われており(飯沼 2000)、この地が氾濫堆積物に広く厚く覆われているのであれば、採集資料も流されてきている可能性が高いからである。しかし、現地調査の結果、この地には東西に細い尾根が走り、その上に調査地点が乗っていることが確認できた。尾根の南は氾濫堆積物による埋没谷となり、南高野古墳などはこちらに位置する。現在も、東西に伸びる集落は尾根上に、水田は埋没谷に選地されていることが遺跡位置図から読み取れよう。(図 1)

尾根上を選地する例は養老町象鼻山や揖斐川町寺屋敷遺跡にも認められ、西濃の旧石器時代遺跡の立地として一般的なようである。

採集資料について (図 2)

採集地はごく限られた範囲であるが、多くの剥片・石器類が地表面採集されている。石器石材は下呂石が主で、サヌカイトも見られる。チャートはほとんどない。採集地の近隣では、池田町教育委員会や財団法人岐阜県文化財保護センターの調査によって、縄文時代後期後半の土器や凸帯文土器がまとまって見つかっている。採集資料の主体となる時期も、おおよそ縄文後晩期ととらえられよう。濃尾平野ではこの時期に下呂石の利用頻度が高まる傾向があり、これとも合致する^{註1}。

こうした資料の中に、旧石器時代のナイフ形石器が 3 点、縄文草創期に属するであろう尖頭器が 1 点確認された。ナイフ形石器の石材は全てサヌカイトである(石材の同定は肉眼による)。流理構造の発達しない、良質の石材である。尖頭器は下呂石製である。以下、各資料について概要を紹介する。

(1) 横長剥片を素材とした二側縁加工のナイフ形石器
長さ 29.46mm、最大幅 10.98mm、最大厚 4.19mm、

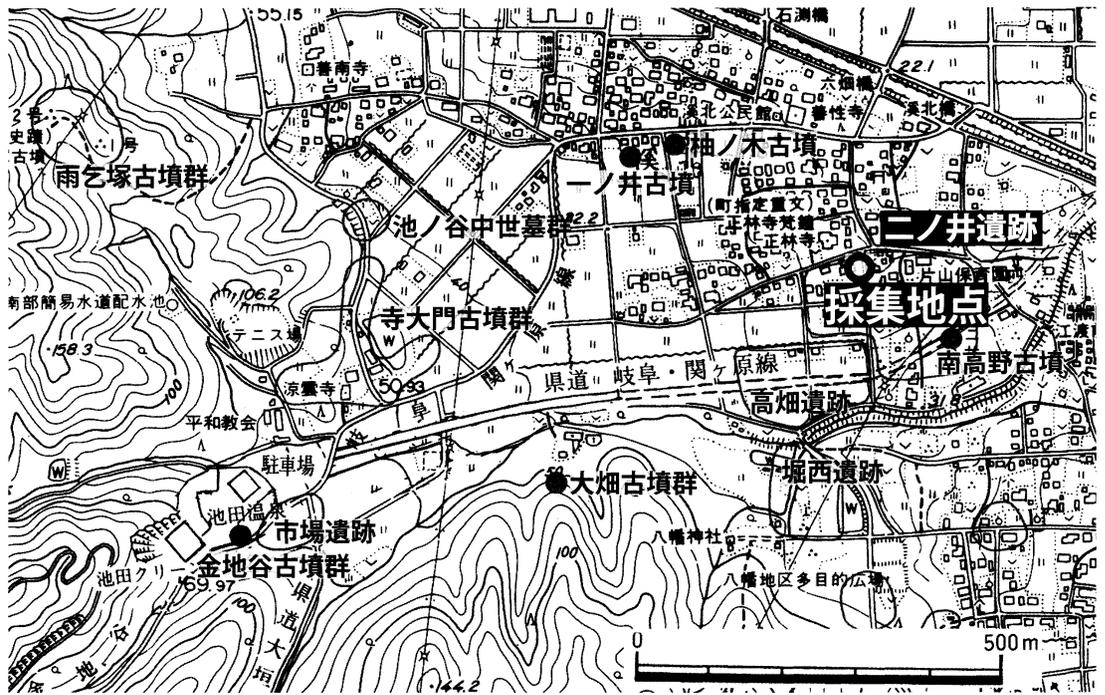


図1 二ノ井遺跡と周辺の遺跡 (南高野古墳ほか報告書に加筆)

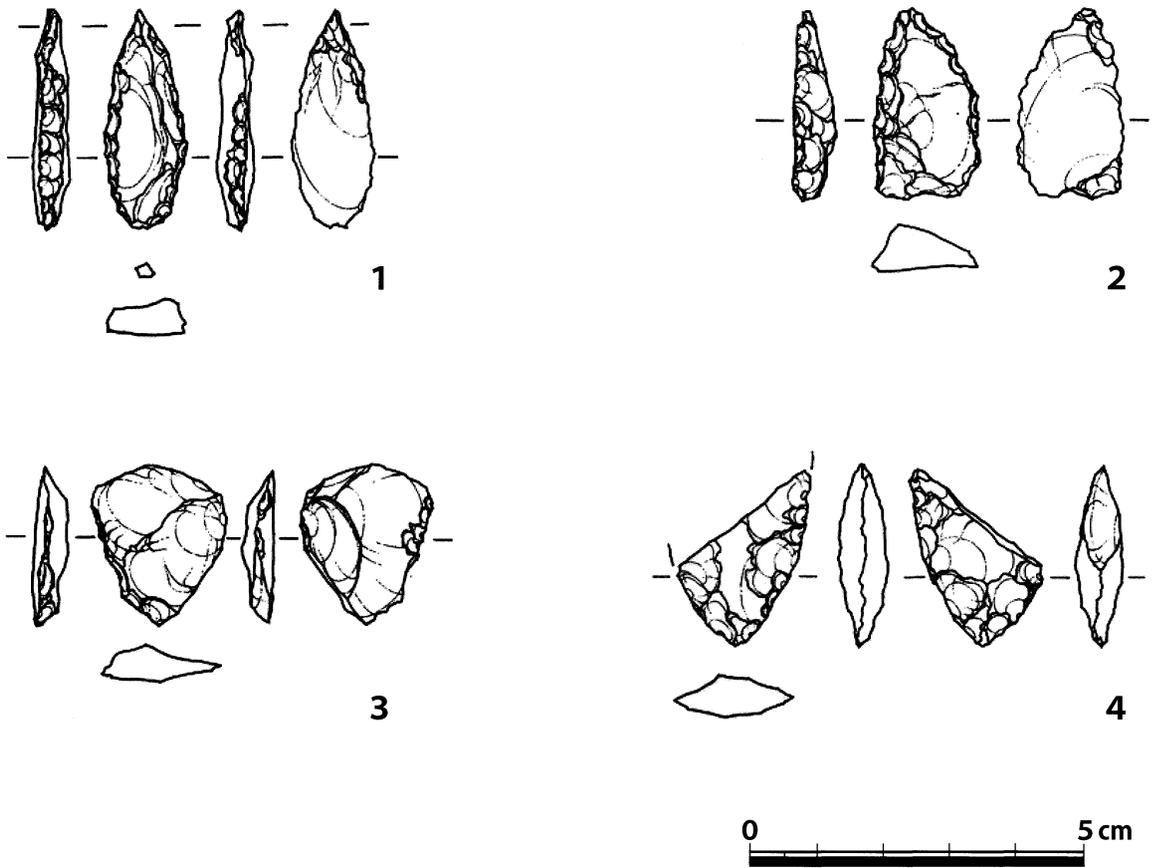
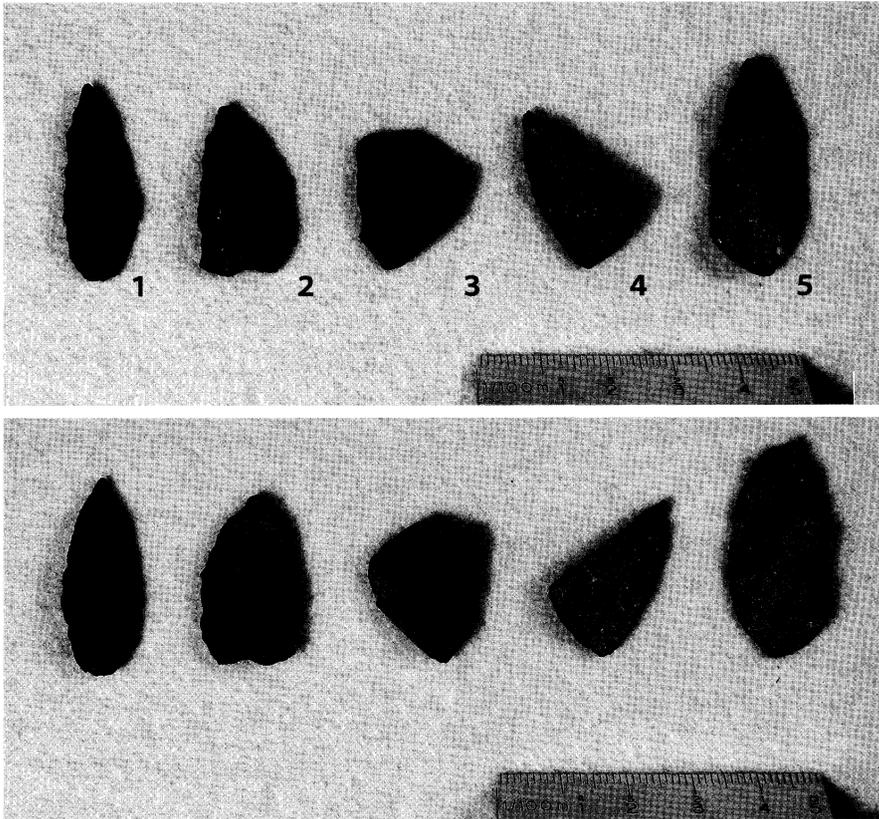


図2 二ノ井遺跡採集ナイフ形石器(1~3) 尖頭器(4)



石器写真 1～4：池田町二ノ井遺跡採集 5：美濃加茂市鷹之巣採集

質量 2g（質量は、最小計測単位 1g のスケールを用いて測定した）

腹面の打点が上方に偏る不定型な横長剥片を用いている。背面は、左半には当剥片の作出に先行する剥離面が大きく残る。右半上部はそれに切られる剥離面であるが、ネガティブな面である。右半下部は左半の剥離面より新しく、調整剥離面の可能性もあるが、いずれにしても作業面を固定する剥片作出ではなく、複数の作業面を設定した剥片作出であったことが読み取れる。

素材剥片の打面側にあたる左側縁の全縁と右側縁の基部にブランディングを施している。上端は尖部を作出するよう意識され、左側縁は背面から、右側縁は背腹両面に調整を加えている。特に、腹面側への調整は細かく深く入り、打瘤のふくらみを除去している。ドリルとしても利用されたのであろうか。

(2) 不定型な幅広剥片を用いた一側縁加工のナイフ形石器 長さ 25.56mm、最大幅 14.76mm、最大厚 5.67mm、質量 2g。腹面は平坦、背面はポジティブ面である。剥片を縦位に用い、左側縁に急角度のブランディングを施す。右側縁の剥離は角度が小さく、ブランディングとは認められない。頭部より、腹面側に潰れ状の剥離が入る。

(3) 不定型な幅広剥片を用いた一側縁加工のナイフ形石器 長さ 21.37mm、最大幅 17.71mm、最大厚 4.24mm、質量 2g。腹面は平坦である。打面は腹面に入る平坦な剥離で除去されるが、背面の 2 枚の大きな面には打点が残り、打面除去後の剥離のようである。背面の剥離面が当剥片作出後に形成されたのだとすると、楔として用いられたことが想定される。腹面の左右両端に、潰れ状の薄い剥離も数枚見られる。楔として利用した後に、左側縁に急角度のブランディングを加えて整形している。

(4) 木葉形尖頭器 長さ (23.76mm)、最大幅 20.00mm、最大厚 6.43mm、質量 (2g) (括弧は現存部における測定値)。下呂石製で、風化はやや進行している。表裏両面とも調整剥離に覆われる。調整は、右側縁は表側、左側縁は裏側に打点が残る。斜めに折損するが、制作時の加圧によるものではなく完成後の折れであろう。折面も風化している。

資料は、採集者により池田町教育委員会に寄贈されている。今回は池田町教育委員会と採集者の厚意により、資料紹介させていただいた。

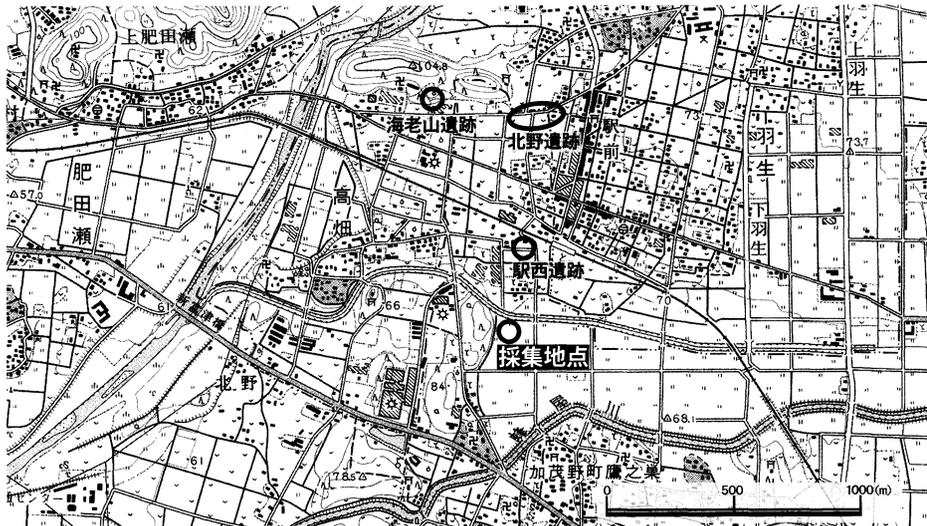


図3 ナイフ形石器採集地点と周辺の旧石器時代遺跡
(国土地理院 1/25000 地形図「美濃関より」)

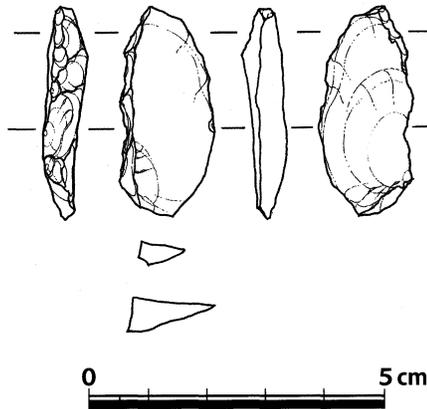


図4 鷹之巣採集ナイフ形石器

3. 鷹之巣採集資料について 採集地について (図3)

平成21年(2009)9月23日、美濃加茂市加茂野町鷹之巣あじさいエコパーク北の植え込みより採集した資料である(東経136度58分04秒、北緯35度28分20秒)。採集地は下水処理場及びスポーツ施設の造成地内であり、資料の原位置性は期待できない。しかし、周辺には駅西遺跡など旧石器時代の遺物散布地が広がっている。

採集資料について (図4)

不定型な横長剥片を用いた一側縁加工のナイフ形石器。長さ32.64mm、最大幅14.05mm、最大厚5.83mm、質量2g。下呂石製で、風化は浅い。背面は一枚の平坦なポジティブ面で、剥片素材の石核から作出された横長剥片を用いている。主剥離面の打点は下方に偏り、下端に見える面とブランディングで除去された面の稜を打面とし

ている。最大幅は中央部にあり、そこから上部に行くに従い幅を減じて尖頭状に仕上げる。刺突具としての機能があったようで、主剥離面とブランディングのなす稜に沿って縦方向に剥離が入る。使用時の加撃によるものであろう。

注1) 縄文時代後晩期に下呂石が卓越する状況は、揖斐川上流の徳山では認められない。徳山と西濃平野部とは様相が異なるようである。

参考文献

岐阜県教育委員会 1990. 改訂版岐阜県遺跡地図
飯沼暢康ほか 2000. 南高野古墳・二ノ井古墳・市場遺跡, 財団法人岐阜県文化財保護センター